

結局、

- 原爆直後の山間部における放射線サーベイは不十分だった。
- その後の土壌放射能データは核実験グローバルフォールアウトの影響が大きい。
- これまでの放射能データから、“(今中)仮説”の妥当性について結論できない。

21

黒い雨放射能研究会による 新たな取り組み

- 床下土壌セシウム137測定
- TIMS、AMSによるウラン236測定
- TIMS、(ICP-MS)によるウラン235/ウラン238比測定
- 仁科土壌、“黒い雨の壁”試料の再測定
- セシウム初期沈着に基づくRetrospective被曝評価
- (気象モデル・シミュレーション)
- (キノコ雲のCG解析)